

「身近な夏の不思議体験2013 山科」開催

山科区「人づくり」ネットワーク実行委員会と本学が主催する理科教室「身近な夏の不思議体験 2013 イン 山科」が9月1日、京都薬科大学にて開催された。本イベントは一昨年に引き続き3回目の開催であり、山科地区の小学生（3～6年生）を対象に理科に対する興味を持つきっかけになればと本学学生実習支援センターが中心となって行われた。当日は約230名の応募の中から抽選で選ばれた128名の小学生が参加し、午前の部（64人）と午後の部（64人）に分かれて実験を行った。実験では、参加した小学生全員に白衣と保護メガネを配布し研究者としての雰囲気味わってもらおうと共に安全に対する理解を深めながら以下の二つの実験を行った。

タマネギから遺伝子を取り出す実験では、身近にある道具を使って遺伝子を抽出した水溶液をエタノールに加え、遺伝子が沈殿する様子を観察した。参加した小学生の中には、家にある物で生命科学の実験が手軽にできることに興味を持ち、他の野菜や植物で実験しても上手く遺伝子を取り出せるのかといった質問をしてくる生徒も見られ、科学に対する関心の高さを窺う事が出来た。次に化合物の濃度の違いによって匂いに変化する鼻の不思議を体験する実験を行った。この実験では、高濃度では比較的不快な匂いがする物質でも、濃度が薄くなれば香ばしい良い香りに変化する現象を体験してもらった。参加した生徒によって、「臭ーい」、「わー、匂いが変わった」、「全く変わらなーい」等個人差があり、あらためて鼻の不思議を認識することが出来た。更に、本実験では三種類の精油を自由に配合することで好みの香りのするオリジナル消臭スプレーを作成してもらい、お土産として持ち帰ってもらった。

一昨年に引き続き3回目の開催とはいえ、普段小学生相手の指導を行っていないため不安の中スタートした理科教室であったが、生徒と教員の垣根を越えたリラックスした雰囲気の中で自然の不思議を体験することが出来た。今回の理科教室を通じて、自然の不思議が身の回りに数多く存在し、これらの不思議を解明していく理科の面白さに少しでも気付いてもらえれば、本学教員として幸いである。最後に、本会の開催にあたり多大なご支援を頂きました山科“きずな”支援事業補助金交付対象事業に深謝致します。

学生実習支援センター 助教 小関 稔

